

## 地域住民や民間事業者の意見集約

- 地域住民や民間事業者の意見集約においては、野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画について、まだまだ市民・事業者に認知されていない、市民や民間事業者の意向が把握しきれていない状況にあります。
- 地域住民や民間事業者の意見集約においては、1) 認知を広げ・多様な意見を把握、2) 方向性を共有するFW（フィールドワーク）・WS（ワークショップ）とフィードバック、3) 実行委員会のメンバーを募り主体的に検討のステップを進め、みんなの想いをのせた「将来像」の取りまとめを行います。

※1フィールドワーク:現地での実地調査

※2ワークショップ:参加者の主体性を重視したグループ対話

## &lt;意見集約のための手法&gt;

## 1) 認知を広げ、多様な意見を把握

多様な属性の  
市民・団体・事業者への  
PRやヒアリングを実施

- ラグフェス、やすまる広場、おいでやすマルシェにてPRを実施。
- ヒアリングやアンケートを通して野洲市MIZBEステーションかわまちづくりの認知を広げ、FWやWSだけでは拾いきれない地域住民や民間事業者の多様な本音を把握します。
- 庁内プロジェクトチームでも野洲市MIZBEステーションかわまちづくりエリアの利活用を検討します。

## 2) 方向性を共有するFW・WSとフィードバック

FW・WSを通して  
共に体感・議論する場を設け  
方向性を共有・発信

- みんなとの議論の場で方向性や課題を共有し、また、その方向性を広く市民に伝えていきます。
- 現地を体感するFWと、実感を踏まえて議論をするWSを組み合わせる方向性を共有する場をつくれます。

参加者を広げる  
キーパーソンを発掘

## 3) 実行委員会にて具体的に検討

実行委員会の立ち上げ  
取り組みや運営についての議論

- 具体的な取り組み（イベント等）や野洲川の方向性を実現するための運営について深く議論する場が大切です。
- 1)、2)を通して見えたキーパーソンや市民公募により、実行委員会を立ち上げ、具体の議論を深めます。



みんなの想いをのせた「将来像」として取りまとめ